



2023年8月10日 発売予定

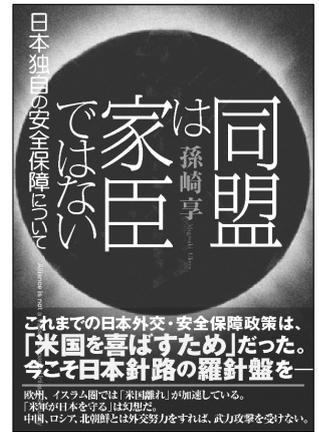
同盟は家臣ではない

日本独自の安全保障について

孫崎 享 著

従来の外交・安全保障政策は、「米国を喜ばすため」のもの。
No.1 外交論者が切れ味よく、日本の針路を示す。

- ◇ 「米軍が守ってくれる」は幻想。「核の傘などない」ことを思い知るべきである。
- ◆ 圧倒的反撃能力のある中国・ロシア・北朝鮮に「敵基地攻撃」論は通用しない。
- ◇ 日本国憲法は「押しつけ」ではなかった。当時の幣原首相の思いとは。
- ◆ 台湾有事なら、沖縄や本土の基地、市街地が中国によって攻撃される可能性がある。
- ◇ 外交努力によって中国、ロシア、北朝鮮からの武力攻撃を防げる。
 - － 台湾、尖閣問題は、過去の合意を守っていけば軍事紛争にはならない。
 - － 「自分たちが脅かされている」と感じさせなければ、ロシアは日本を攻撃しない。
 - － 「国家や指導者を排除する軍事行動に参画しない」と言えば、北朝鮮の軍事的脅威はなくなる。
- ◆ 米国依存の統治システム(政・財・官・学界・メディア)を覚醒させるリアルな考察。



四六判・並製/224ページ
定価：1800円+税

《目次》

- 第一章 安全保障を考える時の視点
- 第二章 最近の動向
- 第三章 ウクライナ問題への対応がリベラル勢力崩壊の原因
- 第四章 世界の新潮流：米国・欧州支配の時代は終わる
- 第五章 台湾海峡で米中が戦えば米国が負ける
- 第六章 日本はなぜ国益追及でなく、対米隷属の道を歩む国になったか
- 第七章 平和を構築する
- 終章 日本のこれからの安全保障について

著者：孫崎 享(まごさき・うける)

1943年、旧満州生まれ。東京大学法学部を中退後、外務省に入省。英国、ソ連、イラク、カナダに駐在。駐ウズベキスタン大使、国際情報局長、駐イラン大使、防衛大学校教授などを歴任。現在、東アジア共同体研究所所長。主な著書『戦後史の正体』(22万部のベストセラー。創元社)、『日本外交 現場からの証言』(山本七平賞受賞。中公新書)、『日本国の正体』(毎日新聞出版)など多数。

青灯社

営業
(担当・辻)

FAX: 03-5368-6943

TEL 03-5368-6550

取次：トーハン、日版、楽天BN、八木書店、JRC、新日本図書

eメール info@seitosh-p.co.jp

(書店印)

孫崎 享 著

同盟は家臣ではない 日本独自の安全保障について

冊

I S B N 978-4-86228-126-5 C0031

定価 1800円+税